



Title	信頼される宗教教団の社会貢献活動とは：浄土真宗本願寺派の傾聴活動「グチコレ」を事例として
Author(s)	加茂, 順成
Citation	宗教と社会貢献. 2015, 5(1), p. 55-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51353
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

信頼される宗教教団の社会貢献活動とは —浄土真宗本願寺派の傾聴活動「グチコレ」を事例として—

加茂順成*

How Buddhist Social Activities Can Create Trust "Guchi-Collection" Activity of Honpa Hongwanji

KAMO Junjo

1. はじめに

宗教団体に対する信頼度の調査によると、日本は32カ国中もっとも低い信頼度であり、国内の他の制度と比較しても「宗教」は「国会」に次いで低い水準となっている [石井 2007:103-104]。原因としては一部の宗教教団による凶悪事件などネガティブな出来事に比べ、社会に貢献する善良な活動はほとんど認知されることはないためと考えられる。東日本大震災後の2012年に行われた「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」においても、「宗教団体がこのような社会活動を行っていたことを知らなかった」という回答がもっとも多く、認知度が低いままである [庭野平和財団 2012:7]。

大谷栄一氏はその要因について、①マス・メディアによってその活動を取り上げられることが極端に少ないこと、②公共的領域における宗教集団のアクティビズム系の活動への市民の忌避感、③宗教者自身による宣伝不足の三点を指摘している [大谷 2009:129]。これら三点の課題を克服する特徴を持った社会貢献活動の事例として、浄土真宗本願寺派の新しい傾聴活動「グチコレ」の活動報告と考察を行うことが拙論の趣旨である。

* 浄土真宗本願寺派総合研究所・研究助手・shokason@gmail.com

2. グチコレの概要

グチコレとは「グチコレクション」の略称である。龍谷大学や京都女子大学など京都で仏教を学ぶ学生を中心とした有志の活動者（グチコレクター）が⁽¹⁾、路上や飲食店など様々な場所で人々のグチ（愚痴）を無料で聴き、集め、それらをホームページ「他力本願.net」⁽²⁾に匿名で公開して社会に共有していく活動である。2012年12月より活動を継続している。



路上（京都タワー下）におけるグチコレの活動風景

2.1 グチコレの構成要素

宗教の社会貢献の定義は稲場圭信氏によれば、以下の通りである。

宗教者、宗教団体、あるいは宗教と関連する文化や思想などが、社会の様々な領域における問題の解決に寄与したり、人々の生活の質の維持・向上に寄与したりすること。[稲場 2011:50-51]

グチコレの活動を稲場氏の提示する「宗教の社会貢献の構成要素」に基づいて、「主体、対象、場所、頻度、領域、方法、宗教的理念・思想」の七項目に分類整理した。

①だれが（主体）

浄土真宗本願寺派と龍谷総合学園各校の学生を中心として結成された組織である。学生が前面に出た活動であり、本願寺派は定期的に学生とのミーティングを行い、理念構築や活動経費の拠出などのバックアップを行う。現状、活動者は本願寺派僧侶が大半を占めているが、より広く人材を募る予定である。

【Data】

活動スタッフ 24名（2015年1月31日現在）

初代代表 龍谷大学実践真宗学研究科 藤原邦洋

二代目代表 同研究科 黒瀬英世

②だれを（対象）

信者（門信徒）に限らず広く一般の方を対象としており、来談者の層としては10代20代の若年層が7割近くを占める。

③どこで（場所）

路上（京都タワー下）や、飲食店、行政施設等で活動を行っている。設備の制約に関わらず活動できるため、従来の寺院の活動圏外においても活動の場を広げている。

【Data】

屋外：京都タワー下、龍谷大学キャンパス等

室内：右京区役所、南青少年活動センター、アジェ（焼き肉店）、キッチン Nagomi、京都坊主バー等

その他単発の講演会・イベントへの出張も行っている。

④いつ（頻度）

週1回程度不定期で活動している。

【Data】

活動回数 113回（2015年1月31日現在）

⑤何を（領域）

傾聴を通して、第三者に安心して愚痴をこぼせる居場所づくりを行って

いる。緊急度が高い重篤な方対象というよりは、日常的・予防的なケアを意識している。

⑥どのように（方法）

対面で傾聴を行う「対面ステップ」と、収集した愚痴をネットで発信する「公開ステップ」の2ステップに分けて活動を行っている。

【対面ステップ】

対面ステップの目的は気軽に愚痴を言える場を創り出すことである。

「共感的な態度、正論・批判をしない、プライバシーを守る」の三原則を守って傾聴を行う。愚痴に対して重い軽いの価値判断を加えず平等に聴き、アドバイス等は行わない。

来談者に対し、愚痴公開の承諾をとる。

【公開ステップ】

公開ステップの目的は、ネット上に公開された愚痴を閲覧することで、共感したり安心できる場を創り出すことである。

対面ステップの後、活動者複数名で振り返りとグチコレレポート作成を行い、匿名性に配慮しつつネットに公開する。

⑦なぜするのか（宗教的理念・思想）

グチコレはいわゆる無縁社会において、日常的に孤独に寄り添う傾聴活動を通して、社会問題の解決に寄与するものである。愚痴は必ずしもネガティブな弱音ではなく、自分と向き合うためのポジティブな本音という側面がある。そのため安心して愚痴をこぼせる、家庭でも職場でもない第三の居場所をつくること、また互いに愚痴なる存在であるという真宗の人間観にもとづいた共生の精神を社会に浸透させていくことを目的としている。

2.2 愚痴データの集計と分析

愚痴聴きを通じて収集した愚痴データを世相を反映したデータとして分析し、記者発表や行政機関との共同研究等に用いる場合がある。

総活動回数 113 回（2015 年 1 月 31 日現在）

愚痴を聞いた人の数 1319 人（男性 730 人、女性 589 人）（2015 年 1 月 31

日現在)

愚痴の数 3548 件 (男性 1670 件、女性 1878 件) (2015 年 1 月 31 日現在)
 10 代 20 代の愚痴が 8 割近くを占めている。

以下、2014 年 5 月 9 日本願寺派記者発表資料「他力本願.net 成果と今後」より抜粋。発表時の愚痴データは以下の通りである。

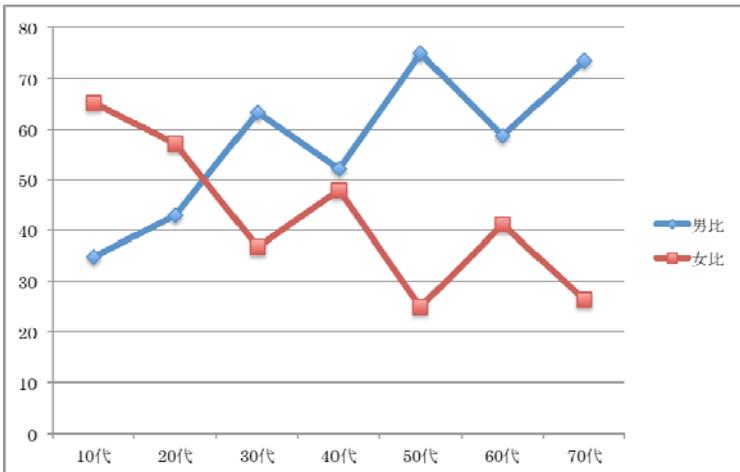
総活動回数：83 回 (2014 年 4 月 15 日)

愚痴を聞いた人の数：1021 名 (男 573、女 448) (2014 年 4 月 15 日)

愚痴の数：2585 件(男 1168 件、女 1417 件) (2014 年 4 月 15 日)

女性一人あたりの愚痴数は平均 3.1 個、男性は 2.0 個。若いうちは女性の方が愚痴が多いが、年をとるにつれ男性の方が愚痴が多くなる傾向がある。

総
グ
チ
数
に
占
め
る
男
女
の
割
合

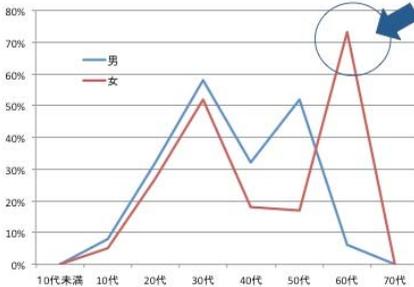


愚痴は仕事、学校、家庭、恋愛、友人、健康、お金の 7 カテゴリに分類し、男女別、年齢別に傾向を分析。10 代に偏った学校、友人を除く 5 カテゴリについて、下記の通り分析を行っている。

仕事

60代女性は「子育て」「家事」の解放後、意識が「仕事」へ向く？

60代男性の愚痴は少ないのに対し、40代、50代では少なかった女性の愚痴は、60代で急増。



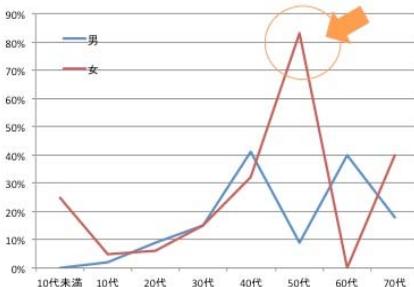
◇愚痴の具体例と考察

「仕事ができない人が多い」(60代女性)
 「仕事の人間関係が嫌」(60代女性)
 →女性の40代、50代は「家庭」での子育てや家事が多いので「仕事」に関する愚痴が少ない傾向か。また、60代で愚痴が増えるのは、子育てや家事に一段落し、「仕事」へと意識がいきやすいとも考えられる。反対に男性は(恐らく)今までの生活の大半を占める「仕事」からの解放される60代であるから、愚痴が少ないとも考えられるのではないかと。

家庭

家庭問題の核？「親の介護」と「子どもの世話」

50代女性の愚痴が多いことが特徴的。



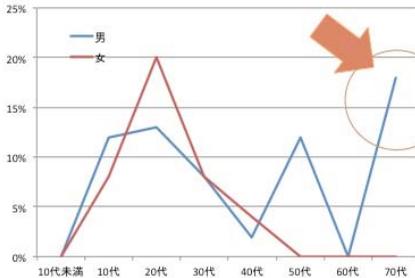
◇愚痴の具体例

「親の介護が心配」(50代女性)
 「子供のことが心配」(50代女性)
 「お弁当を作ってもいらないと言われる」(50代女性)
 →親の介護や、子どもの世話等、家族の身の回りの世話についての愚痴が主。家庭内のことを女性が支えている傾向と推察出来るか。

恋愛

高齢の男性、「身の回りの世話をしてくれる存在」を求める傾向か？

50代、70代の男性の愚痴が多いことが特徴。
対して50代、70代の女性は愚痴ゼロ。



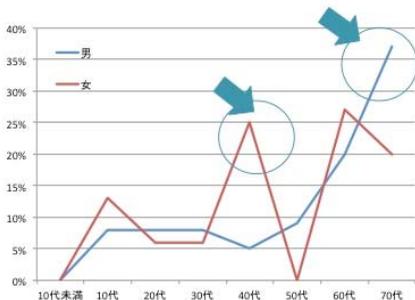
◇愚痴の具体例

「奥さんが欲しい」(50代男性)
「自分の取り柄が、力が強いということしかないので、女性にもてない」(50代男性)
「彼女が欲しい」(70代男性)
→仕事を離れ、仕事以外の部分に意識が向く可能性が。今までの人生を振り返り、「豊かな人生」「パートナー」について考えているとも考察出来るか。

健康

「メンタルバランス」と「自らの死」の意識から生まれる愚痴

40代の女性、70代の男性の愚痴が多いことが特徴的。

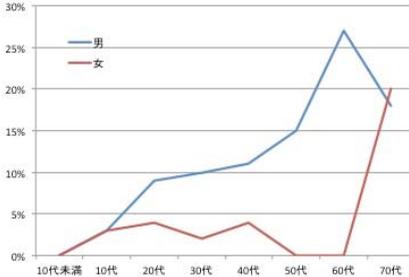


◇愚痴の具体例と考察

「ストレス解消のためにお酒を飲んだら倒れた」(40代女性)
「なんとなく元気が出ない」(40代女性)
→メンタルバランスが壊れる時期か。女性の更年期40代半ば(月経異常・月経不順が続く方が多い)頃といわれているため、更年期障害等の関係がある可能性がある。

「治らないのであれば延命治療に反対」(60代男性)
「ガンで余命が一年」(70代男性)
「幸せだけど、して言えば体力が衰えてきた」(60代女性)
→男性は「病氣」、「死」への不安が顕著に表れている。女性は「健康」への意識がある。平均寿命が、男性が79.94歳、女性が86.41歳(平成24年の簡易生命表より)という結果からも、60代、70代が死を自らのこととして意識しやすいことが考えられる。

お金 男性にとってお金は人生の永遠の課題？
男性は、お金についての愚痴が多いことが特徴的。



◇愚痴の具体例と考察
「世間では景気回復と言っているけど、全然生活が楽にならない」(50代男性)
「給料を上げる」(50代男性)
「年金が減っているのに物価があがる」(70代男性)
「お金がほしい」(60代男性、70代男性)
→女性は、子育てや家事に携わり、男性は働く傾向があるか。

3. グチコレの特徴

先述のとおり、宗教教団の社会貢献活動がポジティブに認知され、信頼を獲得していくためには、以下3点の課題を克服する必要がある。

【課題1】マス・メディアによってその活動を取り上げられる機会を増やすこと。

【課題2】公共的領域における宗教集団の活動への市民の忌避感を回避すること。

【課題3】宗教者自身による宣伝不足を補うこと。

3.1 ニュース・バリュー

グチコレについての報道は関西圏を中心としたものではあるが一定の実績がある⁽⁴⁾。一般的に宗教報道は地道で善良な行動は取り上げられることは少なく、ネガティブなものが積極的に報道されるケースが多いが、グチコレはポジティブに報道されている（例えば、2013年にABC朝日放送におい

て「ストレス社会の救世主」と紹介された)。なぜこれほど報道の対象となるのだろうか？ 宗教のニュース・バリューというものは、江田昭道氏によれば以下のようなものが考えられるという。

- ①社会にとって『悪い出来事』(事件) 〈例〉宗教者の不祥事
- ②対立・論争 〈例〉靖国神社の参拝問題
- ③社会的に影響のある人物・団体の動き 〈例〉創価学会の動向
- ④継続・規則性のあること 〈例〉お盆などの年中行事
- ⑤公共に関わること 〈例〉宗教者による自殺問題への取り組み
- ⑥近年のトレンドなど、流行に関すること 〈例〉近年の葬送事情の変化 [江田 2010:238]

この中でグチコレは特に⑤⑥に該当すると思われる。⑤に関していえば、『法話会』などの教化活動は、『習俗』や『公共』に関わらない、純粋な『個』の信仰に関わることと見なされている」[江田 2010:239] のに対し、グチコレはいわゆる無縁社会において日常的に孤独に寄り添う仏教者の利他的活動という意味で、社会問題の解決に寄与する公共性を認められているといえよう。⑥については、グチコレは現在進行形の仏教を模索しており、その問題意識や手法が時代を反映した活動と評価されているため、報道の対象となっていると思われる。これらのニュース・バリューを感じさせる具体的な報道記事としては、以下のようなものがある。

「悩み多き現代人のぼやきを仏の心で受け止め、少しでも気持ちが楽になってもらえたらという」(京都新聞 2013年5月13日)

「誰にも話せずに悩みを抱えた人たちの心を軽くし、『悩んでいるのは一人ではない』と伝えるのが狙いだ」(毎日新聞 2013年5月16日)

「核家族化などの影響により人々の孤立化が進む現代社会で気軽に本音で語り合う場の必要性を強調する」(中外日報 2013年12月7日)

これらの新聞報道の直後から、ラジオやテレビ等新聞以外のメディアによる特集や行政施設からの依頼が増えている⁽²⁾ 報道がイベントの依頼を招き、イベントが報道につながる傾向がある。

表1 マス・メディア報道実績 (2014年10月6日現在)

新聞	京都新聞	2013年5月13日、2014年5月10日
	毎日新聞	2013年5月16日、2014年5月11日
	本願寺新報	2013年6月10日、2013年10月20日
	読売新聞	2013年6月4日、2013年8月20日、2014年5月10日
	中外日報	2013年5月2日、2013年12月7日
	文化時報	2013年5月1日、2013年12月18日
	朝日新聞	2014年4月4日、2014年5月10日
	産経新聞	2014年5月10日
	中日新聞	2013年5月12日、2014年5月10日、2014年6月14日
ラジオ	KBS京都「笑福亭晃瓶のほっかほっかラジオ」	2013年5月24日
	JFN系列FMラジオ「face」	2013年6月4日
	NHKラジオ第一放送「関西ラジオワイド」	2013年12月24日
	NHKラジオ第一放送「ここはふるさと旅するラジオ」	2014年1月27日
	文化放送「福井謙二グッドモーニング」	2014年9月26日
テレビ	ABC朝日放送「おはよう朝日です」	2013年7月2日
	NHK総合テレビ「週末応援ナビ☆あほやねん! すきやねん!」	2014年1月11日
	NHK総合テレビ「ニュース610京いちにち」	2014年1月22日
	NHK WORLD「NEWSLINE」"Learning to Listen"	2014年2月18日
	NHK総合テレビ「NHKニュース おはよう日本」	2014年3月4日
	NHK BS1「BS列島ニュース」	2014年3月5日
	MBS毎日放送「VOICE」	2014年4月21日
雑誌	「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」26号	2013年12月1日
	「龍谷」77号	2014年3月10日
	「フリーペーパーののさま」7号	2014年6月号
	「UNN関西学生報道連盟フリーペーパー」	2014年7月21日
	「月刊住職」481号	2014年8月号
	「伝道」82号	2014年9月1日

以上のように、グチコレはマス・メディアにとってのニュース・バリューを持つ活動であるため、報道機会が多い。

3.2 忌避感の回避

宗教教団がどのような印象を与えると忌避感を招き、信頼を損ねてしまうのだろうか。石井研士氏によれば、一般的に信頼度が低いとされる新宗教教団の代表的なイメージは以下のようなものがあるという。

「超能力の強調、怖い・不気味、教祖の強い個性、金もうけ主義、強引な勧誘、内部抗争・分裂」[石井 2007:99]

この点、グチコレの活動には、これらの要素にはあてはまらない（むしろ相反する）下記のような特徴がある。

①超能力の強調

- ・聴くだけという素朴な活動であり、特別なスキルは不要。したがって個人の資質を問わず心意気ひとつで誰でもできる活動である。

②怖い・不気味

- ・入信勧誘ではなく僧侶の寄り添いと傾聴訓練が目的であることを明示している（活動の目的・動機がシンプルかつ明瞭である）。
- ・愚痴聞き前に様々な説明を行い、承諾を得ている（透明性が高い）。
- ・路上や飲食店、公共施設などのオープンな場で活動している（特殊な空間ではなく日常生活圏の中である）。
- ・ホームページが存在し、責任の所在が明確である。
- ・ポップな看板・私服の若者など親しみやすい外観である。

③教祖の強い個性

- ・傾聴と振り返りともにチームプレイで行っており、特定のカリスマを必要としない。

④金もうけ主義

- ・参加費無料で愚痴聞きを行い、その後の展開で金銭が発生するようなこともない。

⑤強引な勧誘

- ・客引きは行わず、待ちの姿勢で愚痴聞きを行う（教えのおしつけもしない）。

⑥内部抗争・分裂

- ・特定の宗派色は薄く、学生を中心としたサークルのような雰囲気である。
- ・利害関係がないため内部の摩擦も少ない。

以上のように、グチコレは宗教集団の活動への市民の忌避感を回避しようとする活動の特徴を持っている。

3.3 伝播力

グチコレ活動後に来談者を対象に行ったアンケート調査結果がある。グチコレ活動者の大塚雄介氏が「ユースシンポジウム 2014」「2014年9月28

日」「第 5 回京都まるごとマルシェ」「京都メディアフォーラム第 15 回例会」「京都ヒューマンフェスタ 2014」において実施し、アンケート質問用紙記入による計 47 名からの有効回答を得た。質問項目は「グチを話してみて、スッキリしたり気持ちが整理されるなど、よい効果は感じましたか?」「今日グチを話してみて、スッキリした方に質問です。今度は自分が他の人のグチを聴いてあげたいと思いますか?」「グチをホームページ上で公開していくことについて、どう思われますか?」「家族や友人、同僚など、身近な人には話づらいグチがありますか?」の 4 点である。

このうち「グチを話してみて、スッキリしたり気持ちが整理されるなど、よい効果は感じましたか?」という質問に対して「とてもよかった」「まあまあ良かった」といった正の効果を示す回答が 39 件 (83%) を占めた。「京都メディアフォーラム第 15 回例会」参加者 19 名に限って、参加者同士による愚痴の聴きあいのワークショップ⁽⁴⁾を行った上で同様の質問を行っても正の効果は 16 件 (84%) という結果となり、正規のグチコレクターが愚痴聴きを行った場合とほぼ同等の効果が得られていることが確認できた。愚痴聴きは専門スキルを必要とせず、姿勢ひとつで誰でも行えるものである。加えて「今度は自分が身近な人のグチを聴いてあげてもよいと思いますか」という質問に対して、36 件 (77%) が「そう思う」という回答であることから、社会に愚痴聴きの習慣が伝播する可能性がある。

また、守秘義務を重視するカウンセリングに対して、グチコレは愚痴の公開と共有を積極的に行っている。「グチをホームページ上で公開していくことについて、どう思われますか?」という質問に対して、40 件 (85%) の「よいと思う」という回答が得られた。ホームページ上に公開された愚痴が SNS 等で拡散することにより、グチコレの認知度が向上していく可能性がある。

以上のように、グチコレは宗教者自身による宣伝不足を補って余りある伝播力を持った活動といえる。

4. おわりに

以上のように、グチコレはマス・メディアにとってのニュース・バリュ

一を持つ活動であるため報道機会が多いこと、宗教集団の活動への市民の忌避感を回避しうる活動の特徴を持っていること、宗教者自身による宣伝不足を補って余りある伝播力を持った活動であることが確認できた。宗教教団の社会貢献活動がポジティブに認知され信頼を獲得していくためのモデルケースのひとつといえるのではないだろうか。とりわけ、三点目の伝播力は重要だと考える。稲場圭信氏は宗教の社会貢献活動の可能性について以下のように述べている。

宗教の社会貢献活動は、社会福祉の実質的な担い手としての機能に加え、思いやりを育てる場を提供する機能もあわせ持っている。宗教の社会貢献活動は、社会的共感を呼び、宗教を超えて利他的な倫理観を社会に伝えていく可能性をもっているのだ。[稲場 2011:67]

グチコレ活動スタッフの参加資格としては、当初は浄土真宗本願寺派に関連する組織（寺院・宗門校（OB 含む）・幼稚園・保育園など）に所属していることを条件としていたため、現在の活動者は本願寺派僧侶が大半を占めている。しかしこの条件に該当しない活動者も増えてきており、今後はより広く人材を募集していくことが予定されている。グチコレをより開かれた団体に発展させるためである。また、先述した調査結果にあるように、本来愚痴聴きは誰にでも行えることであり、かつ愚痴を聴いてもらった人は今度は聴き役にまわりたいと考えるものであるため、グチコレをきっかけとして社会に愚痴聴きの習慣が伝播する可能性がある。グチコレが一団体の枠組みを超えて社会的ムーブメントへ発展していけば、社会に愚痴聞きや他者を尊重する姿勢が浸透し、利他的な倫理観が広がっていくこととなるだろう。

註

- (1) 龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生が過半数を占めている。「実践真宗学研究科」とは、「社会的要請に実践的・具体的に対応しうる宗教者のあり方について教育・研究するとともに、求められる宗教的实践者にふさわしい高度かつ専門的な素養をもつスペシャリストを育成」する教育機関である。

龍谷大学 実践真宗学研究科ホームページ

http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/graduate/practical_shin/index.php

- (2) 「他力本願.net」とは、浄土真宗本願寺派が運営する新たな公式ホームページである。これまで仏教との関わりが薄かった方の悩みや関心に寄り添うことを目的として開設された。本願寺派をとりまく一般寺院、僧侶、仏教に関連する様々な活動を企画し、関係する人脈を発掘・プロデュースし、社会に発信していく媒体である。本願寺派に関連する龍谷総合学園の龍谷大学、京都女子大学、相愛大学などの学生とコラボレーションしながらの発信が特徴である。
- (3) 【講演会・イベント実績】(2015年3月1日現在)
《講演会》
龍谷大学 文学部 教義学特殊講義 (A) 2013年6月2日
ユースシンポジウム2013 2013年9月29日
仏教心理学会 2013年10月4日
龍谷大学 深草例会 2013年11月29日
本願寺派大阪教区ビハラー研修会 2014年2月26日
龍谷大学 教化法 2014年6月3日
龍谷大学 文学部 教義学特殊講義 (A) 2014年7月14日
「京都メディアフォーラム (Phase II)」第15回例会 2014年10月23日
本願寺派大阪教区 石川北組 幹部研修会 2015年1月30日
本願寺派大阪教区 豊島北組 実践運動研修会 2015年2月20日
《イベント》
京都市ユースシンポジウム2013 (京都市) 2013年9月29日
武蔵野大学学園祭 (西東京市) 2013年10月19日~20日
京都ヒューマンフェスタ2013 (京都市) 2013年11月3日
メリシャカ LIVE2013 (大阪市) 2013年12月15日 (日)
東日本⇄京都 交流・相談会 (京都市) 2014年3月16日
龍谷大学オープンキャンパス (京都市) 2014年6月15日
阿弥と〜く (東京都港区) 2014年7月7日
ユースシンポジウム2014 (京都市) 2014年9月28日
第5回京都まるごとマルシェ (京都市) 2014年10月11日~13日
第4回木津川市福祉大会 (京都府木津川市) 2014年10月18日
京都ヒューマンフェスタ2014 (京都市) 2014年11月3日
あやべ食育・すこやかフェスティバル (京都府綾部市) 2014年11月9日
さんさんフェスタ(京都府城陽市) 2015年年2月15日
- (4) ワークショップの方法は以下の通りである。なるべく初対面同士でペアを組み、「年代、性別、聴いたグチ」をメモしながらグチを聴く。また、あらかじめ聴き方のポイントとして「共感的な態度で聴く」「正論・提案・批判をしない。」「来談者のプライバシーを守る。」の3点を踏まえて行う。

参考文献

- 石井研士 2007『データブック 現代日本人の宗教』新曜社。
庭野平和財団 2013『『宗教団体の社会貢献活動に関する調査』報告書』公益財団法人庭野平和財団

大谷栄一 2009「平和をめざす宗教者たち-現代日本の宗教者平和運動」『社会貢献する宗教』世界思想社。

稲場圭信 2011『利他主義と宗教』弘文堂。

江田昭道 2010「ニュース記事の中の『宗教』」『宗教と現代がわかる本 2010』平凡社。